

あいむ柏崎

— 女と男 共につくる希望の未来 —

令和2(2020)年7月5日

第3号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

市民アンケートから見える柏崎市の男女共同参画の現状

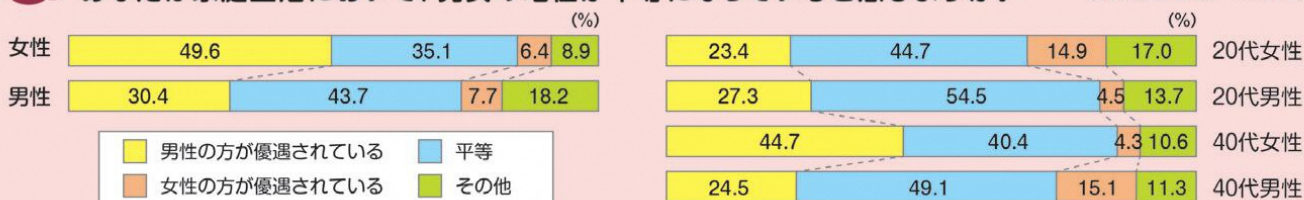
男女共同参画社会とは、性別に関わらず互いを尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる社会です。女性も男性も、夫も妻も、仕事でも家庭でも、それぞれの生き方をそれぞれの意志で選択でき、男女の平等感を実感できる社会を目指しています。

令和元年(2019年) 柏崎市実施、20歳以上の男女2,000人

問

あなたは家庭生活において、男女の地位が平等になっていると感じますか。

(有効回答数 769人)



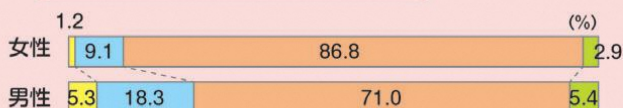
年代別に見ると、20代は男女とも平等であると感じている割合が高いですが、30代以上は、男性が優遇されていると感じている女性の割合が高いという結果でした。女性にとって、結婚や子育てといった環境の変化が生活の変化に大きく影響しているようです。

問

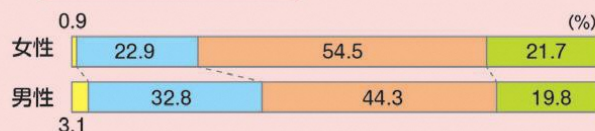
結婚されている方に伺います。あなたの家庭では、次のような家庭内の仕事を、夫婦の間でどのように行っていますか。

(有効回答数 472人)

掃除、洗濯、食事の支度などの家事



育児や子どものしつけ



■ 主に夫 ■ 夫婦同じ程度 ■ 主に妻 ■ その他

女性と男性では、感じ方がずいぶん違うようですね。また、家事や育児といった家庭の中での仕事は、女性に多くの負担が偏っていることが伺えます。これは、働くのは男性(夫)、家庭を守るのは女性(妻)という考え方や男女に賃金差があることなど、男性中心に社会が回っていることが大きく影響していると考えられます。

家事、育児、介護は女性のものでしょうか？

育児や介護をしながら働き続けることはできませんか？

女性が輝くまち、男性も暮らしやすいまち
子どもからお年寄りまで全ての人が笑顔になれる
柏崎市を、市民の力で作っていきましょう

女性では男性のように仕事をする能力がないのですか？

男性は育児という尊い仕事を犠牲にして会社を優先させなければなりませんか？

柏崎市議会議員の皆さんと懇談会を行いました

令和2年2月3日(月) 会場/柏崎市市民プラザ 参加者/42人(市議会議員17人・会員25人)

この懇談会で、男女共同参画は**住みよいまちづくりのために重要な施策**であること、一步ずつ確実に進めていくために、**市民と行政との協働が欠かせない**との認識を共有することができました。

●意見交換に先立ち、子育てアンケートの結果を報告

- ・産休育休明けからの保育園へのタイムリーな入園
- ・小学校入学後の放課後預かりの充実
- ・柔軟な働き方や職場の理解など労働環境の整備
- ・子育て世代を含めた地域交流や孤立させない「つながるサポート」の充実

こんな要望がありました

(子育てアンケート調査:令和元年7月28日、親子わんだーランドにて来場の父母45人に実施)



●テーマに沿った意見交換

テーマ1

- ・働きたい女性が働き続けるためにはどのような取組が必要ですか
- ・男性の「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の観点で家事育児の分担をどう捉えますか

ご意見

- ・男女の家事分担の意識改革や互いの思いやりを大切にする
- ・女性が働き続けることができる職場環境や社会の制度改革を少しずつでも図っていく
- ・キャリア教育、総合学習、教科全般を通じた学校教育で次世代への期待は大きい

テーマ2

- ・政策決定の場に女性が参画するにはどのような取組が必要ですか
- ・女性議員が増えた柏崎市議会の変化、改善されたことはありますか

ご意見

- ・市の審議会委員や町内会の役員など、方針決定する場に女性が少ない。なぜ、女性の視点が必要なのかを丁寧に説明することも必要
- ・女性は管理職や地域の役員になることを嫌うケースもある。女性も意識を変えなければならない
- ・女性の町内会長が非常に少ない。役職に就くことを嫌う柏崎の地域性(カラー)を打破する手立てはないものか
- ・議会に女性が増えたことでいろいろな視点で議論ができ、議会の活性化に繋がっている。また、委員会の審議なども和らいだ雰囲気だ

(報告/三井田隆)

私たちは柏崎の「ハッピー・パートナー企業」です

新潟県では、男女が共に働きやすく、仕事と家庭等の両立、女性従業員の育成や登用などに積極的に取り組む企業を「ハッピー・パートナー企業」として支援しています。



手を添えることであたたかなピンク色に

株式会社 彩 (いろどり) 剣野町20-16



「私たちが手を添えることで、その人のまわりがあたたかなピンク色に染まりますように」という想いを込め、訪問介護と介護タクシー事業をしています。

ご縁が繋がったご利用者のこれからに彩りが添えられていたら嬉しいな、と日々『人』と『人』の関わりを大切にしています。ご利用者はもちろんのこと、職員に対しても同じ気持ちでいます。

私自身、三人の子育てをしている母親です。子育て世代の職員も、子育てがひと段落した先輩職員も、これから生活環境が変わる職員も、少人数の会社だからこそできる対応を心がけています。職員それぞれの環境に合わせて無理のない勤務を組む、全員が意見や提案を出しやすい雰囲気作り、『お互いさま』を合言葉に相手を思いやる、時間外勤務にならないように職員間で声を掛け合い効率の良い仕事ができるように配慮するなど些細なことでも積み重ねていくと少人数の小さなチームがとても大きく見えてきます。

2019年4月から始めたばかりですが、これからもその『時』の、その『人』に目を向けていける事業を目指して、日々学んでいきたいと思っています。

(代表取締役/土田紗知さん)



代表取締役
土田 紗知さん

女性活躍への取組み

柏崎信用金庫 東本町1-2-16

柏崎信用金庫は、結婚・出産などの人生の節目を経ても女性が「働き続ける」環境は充実しており、育児休業取得率、育児短時間勤務の利用率はいずれも100%で、既に定着して10数年経ちます。

当金庫は女性職員が約4割を占めています。女性が「働き続ける」から「仕事で活躍する」に踏み出すには、女性活躍の「なぜ」と「本気度」を伝えるトップの強い発信力が重要です。2018年3月に発足した「女性活躍推進室」がその一つで、配属された女性職員は日常業務を一切持たず、約3カ月、専門性の高い分野の勉強をする、いわば庫内学習塾に近いイメージです。ここを巣立つ女性職員を「卒業生」と呼び、人事戦略に合わせた配属を行っています。勉強の経験を積んだ職員の配属で新たなOJTのフレームワークが形成され、他の職員の刺激になり、プラスの相乗効果を生む狙いもあり、発足して2年経った今では、卒業生限定的だった実績報告が他の職員からも報告されています。

女性活躍は社会的要請の背景もありますが、男女関係なく職員に成長の機会を与え、新たな能力を発揮することで「女性の力を活かしたい」とする大きな動機付けがあることを実感しています。

(常勤理事・女性活躍推進室長/小熊栄子さん)



理事長
小出 昭夫さん

柏崎の女性史

女性民権家

にしまき さくや
西巻 開耶

慶応2年(1866)ー明治41年(1908)

西巻開耶は、「我が国女性政治犯第1号」として注目された女性です。明治15(1882)年、16歳にして政談演説会で男女同権を説き、罰金刑に処せられた開耶。明治13(1880)年から2年余り、刈羽郡公立第一番小学柏崎校の助手を務めましたが、その間、政談演説会の壇上に3回立っています。当時、そうした女性の姿は注目を集め、「有名な美女が祝辞を朗読」(新潟新聞)、「その風姿高尚、容貌うるわしく、芙蓉の瞳、牡丹の唇、雪の肌、天人が下りしか」(朝野新聞)とたびたび紙面を賑わしました。しかし、未成年の演説は禁止されており、3回目の演説が集会条例違反となり、罰金刑の言い渡しを受けたというわけです。

その後、上京した開耶は僧侶北島道龍と出会い、その仏教改革論と強烈な国権論に共鳴して弟子となりました。以後、北島と共に婦人修正会を組織し、女性の社会的自立や社会参加を目指して女子教育推進に取り



柏崎の西福寺で政談演説会の祝文を朗読
(明治16年1月22日付け「朝野新聞」の挿絵)

組むこととなります。婦人修正会による巡回演説は、東北、北海道など各地に及びました。柏崎でも明治24(1891)年、共栄座における女子教育大演説会で昼夜2回講演し、その後、小千谷や南魚沼、新潟など県内各地を訪れています。

開耶は一貫して男女同権・女子教育の必要性を説き、「自分自ら一人前の生活は充分に出来るよふ各自に職業を持たねばならぬ」と女性の経済的自立を特に強く論じました。「若き女性民権家」「我が国女性政治犯第1号」などとセンセーショナルな人物として語り継がれる開耶ですが、後半の人生における地道な活動こそ評価されるべきものだと思うのです。

(協力/早川美奈子さん)

写真: 柏崎市立博物館蔵

男女共同参画基本計画を策定中

市では、男女共同参画を推進するための基本計画(計画期間:令和3~7年度)を、市民や事業所へのアンケート結果を参考に策定します。

男女共同参画を推進する上での課題の一つに、今までの働き方を見直して(働き方改革)仕事と生活の双方の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現させ、女性が働き続けながら安心して出産や育児ができること(女性活躍)、男性がもっと家事や育児の時間をつくれるような環境づくり(男性の育休取得)を進める必要があります。

内閣府の発表(2016年)では、日本の子育て期にある男性の家事・育児時間は1時間23分で、アメリカやドイツと比べると半分以下です。また、第2子以降の出生率は、休日の夫の家事・育児時間が2時間未満の家庭では32%なのに対し6時間以上の家庭では87%となっています。

(柏崎市人権啓発・男女共同参画室)

あとかき

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、私たちの生活様式も大きく変わりました。

先日新聞で、外出自粛が続くと私たちの健康に3つのリスクが高まってしまうことがあるという記事を読みました。

1つ目は運動不足が免疫力を低下させること。2つ目は運動不足によって体重が増加し、生活習慣病発症リスクを高めること。3つ目は友人との会合や趣味、運動サークルなどへ参加ができないことから、社会性の低下に伴い精神面の健康が悪化すること。そのストレスから鬱傾向になったり、高齢者はさらに低栄養に陥り、寝たきりや認知症発症に至ることがあるので、自宅でする体操や、人混みを避けて、マスクを着用した上でのウォーキングやジョギングなどを積極的にしていくことが大切だという内容でした。

色々なストレスにより身体の不具合ができてきているよね…という話が最近よくです。先行きが不安定な中、自分のできる運動やリフレッシュ法を見つけ、免疫力を上げ、体調を整えていきたいと思います。

(M.N)



「親子わんだーランド」開催中止のお知らせ

毎年夏に開催している子育て支援イベント「親子わんだーランド」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は開催を中止いたします。

こちらからご覧いただけます

ー 柏崎市ホームページ

市民議会
会員募集



あいむ柏崎
バックナンバー

